



何と言ってもバリ 2 の素晴らしい点は、高速時の滑空性能である。その最大速度（50km/h）に至るまで極めて高い滑空比を保っている。

ハイエンドな B+クラスの難しさはなく、挙動もおとなしい。最初のバリ 1 より対象パイロットが広がり、さらに性能とバランスが向上している。

バリ 2 はウインドテックの素晴らしい成功作となるだろう。

### （パラパント誌 July 2017 BALI2 レビュー）

テストしたマリオ・アークによると Windtech 史上で最高の傑作。以下、その翻訳をお楽しみください；

バリは、その名の通りヒンズー教の悪魔のように大胆で、大空に君臨し全ての願いをかなえるビシュヌ神の伝説のようだ。コントロール性とレスポンスの調和がとれ、性能に秀でたバリ2は、驚くべき性能を持ちながらもBクラスとしては優しい機体だ。シャークノーズ、クロスロッド、ミニリブ、ダブル 3D カット、ライン数の削減による空気抵抗の大幅な減少、と、最新の技術がすべて投入されている。ハイブリッド3ラインに最新のスピードシステム(性能の低下がほとんどない)が付き、素晴らしい滑空性能と安定性を発揮する。

ブレークの効きは精確で均等であり、過敏であったり鈍感であったりすることはない。旋回性が良く、思い通りに回り、バンクが付く。高い運動性能により更に上昇性能を発揮し、リッジでもサーマルでもよく上がる。翼断面型は薄く、独自のエアインテークはあらゆる迎え角で気流をよくとらえてくれる。ライン数は極めて少なく、ボトムラインは被覆付きダイニーマ、アッパーラインは被覆なしのアラミド製だ。A ライザーからは片翼わずか 2 本(見分けやすく色分けされている)。Cラインでのコントロールも可能。ブレークラインについているボールのおかげで精確で引き幅も大きめにとれる(スピードシステムを効果的に使える)ようになっている。

バリ1は、前回のスペイン選手権においてボルファ・ロドリゲスとガブリエル・カナダが見せつけた性能と成績によって、名声を確立した。最新のバリ2では、さらに高い性能を示している。

(注釈:2017年7月のスペイン選手権においてバリ2は、更に印象的なパフォーマンスを見せつけた)

サーマルや乱気流中でも乗りやすく、安定性と剛性がさらに高くなっていて、あらゆるバンクで良好な旋回性を発揮する。立ち上げは A ライザー片翼 2 本のため、無風時には少し技術がいる。強風時には好ましいのだが、翼端がややもたつき、立ち上げに少し時間がかかるのだ。無風でも、あまり引っ張らずに滑らかに加重していくことだ。

最新の技術が全て投入されていて、最新の翼断面型に組み合わされたシャークノーズの段差は他のモデルが通常 4 cm のところわずか 2 cm で、翼断面型をよりクリーンで高性能にしている。さらにスピードシステムではより後縁側が持ち上がり、翼断面型をより安定性の高いものへ変化させる。何と言ってもバリ2の素晴らしい点は、高速時の滑空性能である。その最大速度(50km/h)に至るまで極めて高い滑空比を保っている。

前縁のセールは3D カットによる 2 重縫製で、後縁にはミニリブを装備。ラインおよびブレークラインの取り付けポイントの配置が優れていて、ライン総長は全カテゴリーで最短となっていて、良好な沈下率を得ている。被覆付きと被覆なしの素材をうまく使って最小のライン数としているが、バリよりわずかにライン総長を増やすことで、安定性と剛性をさらに高めている。

キャンピーにスカイテックスの生地、ラインをダイニーマとアラミドの組み合わせと最高の素材を使用し、ボトムラインには被覆を用いている。バリで用いられていた後部のロッドは廃止された(軽量化とたたみやすさのため)。大き目の台形インテークと新型の翼端。翼内部のダイアゴナルリブとトランスバース構造は高い剛性感を達成している。

## FLIGHT

驚いたことに片手でも楽に飛ばすことができる。その点は標準的な B 認証機との違いは特にないが、その高性能は大きな違いだ。旋回でも直線飛行でもブレークを引き過ぎると、縦軸回りの挙動(ウイंक)が出て、引き過ぎを教えてくれ、早めに対処することができる。通常のコントロールではブレーク量は少なくて済み、ロールが早くから反応し、前方へのシューティングも少ない。翼厚は昔の機体に比べるととても薄い。

スパイラル安定性は、スピンの増大することも止まってしまうこともない。そのため一定バンクでロールや旋回を保つのが楽だ。旋回を絞っていくには、外側のブレークを少し緩める操作が有効で、あるいは、速度低下を避けるために両方のブレークを同時にほんの少し緩めても良い。この機体は、その高い性能に対してとても楽に飛べ、コントロール性が精度の高い精確なものであるにもかかわらずそれほど注意力を要求してこない。





**TEST**



El giro es bueno, el mando medianamente físico y las reacciones y balanceos están bastante amortiguados. Sólido, estable, fácil de pilotar, poco nervioso, talas un poco grandes y una maniobrabilidad equilibrada y enfocada al máximo rendimiento.



22 Parapente - VUELO LIBRE



Bóveda elíptica con la parte central bastante plana, los anclajes del freno van muy separados y en el borde de salida, lleva mini-costillitas. Los estabilizadores son anchos y truncados, con cara torsión positiva. Abajo: 3 bandas, con la A dividida, bola en el puño y poleas cubiertas de neopreno, con cordón de Dyneema y un asa para tirar de las "Ces". Con 2 cordones en la A, las orejas tardan en quedar infladas con poco viento, subida ligera.



Fotos de Eloi Arqué, lugar: Castillonroy (Huesca).